



触れ合い、ふるさとの素晴らしい自然環境に理解を深めてもらうことを目的に、小学校高学年を対象に「生きる力」育成研修事業として「アドベンチャーキャンプ」を実施している。更に、河川も含めた町内の自然環境の貴重さや有益性を学ぶ機会を充実させていきたい。

②早速、吾妻川東股沢の町道沿いと南股沢の現場確認を指示した。担当課の報告によると、河川沿いに流木は確認できたが、河川を塞ぐような状況にはないとのことでしたが、降雨の際は、道路や河川等のパトロールを行い、危険な流木などを発見した際には、管理区分に応じて、青森県又は町が情報共有しながら除去など対応していく。

問 今議員

①新分野で事業開始する方に対する創業支援の実態は。

②自ら開発した新商品の販路拡大等のため、町外での商談会・展示会に参加する経費の一部を補助していたが、今でも継続しているのか。

『補助金を設け
支援に努めている』

産業振興
事業開始に
創業支援の実態は



▲火起こし体験(アドベンチャーキャンプ2024)

答 町長

①当町では、創業支援の一つとして「深浦町創業支援事業補助金」を設けており、広報ふかうらおしらせ版での周知のほか、町の公式ウェブサイトでも常時掲載しながら、創業支援に努めている。昨年度は、宅地建物取引事業者1件を認定し、今年度は、現在、飲食事業者1件から申請を受け、認定精査を行っている。

②深浦産商品の販売促進等による地域経済の活性化を目的に、中小企業者が販路拡大のために展示会等へ出展する際に必要な経費に対して「深浦町販路拡大支援事業助成金」の交付を令和3年度から行っており、現在も継続している。令和4年度は食品関連事業者が2社、昨年度は同じく食品関連事業者1社が助成金を活用し、いずれも首都圏を会場にした商談会に参加している。今年度は、さらに県と町が連携しながら大型の商談会へ参加する計画もある。引き続き、参加事業者の要請に寄り添い、積極的な支援に努めていく。

問 今議員

①②漁業は、漁船を用意できたとしても、潮の流れや天気など、一人前になるには「安全操業の知識」や「漁獲技術の習得」など、ベテラン漁師や漁協の全面的なサポートがなければ厳しいものと思われる。これらを踏まえて「不要船舶バンク制度と新規就業者への技術的指導」などをパッケージで事業化できるかを各漁協と協議していきたい。



伝統文化振興策 郷土芸能などの 保護や伝承の考えは

問 答

財政的な支援のほか
後世に引き継ぐよう努めている



質問者の動画が
視聴できます。

こん かつよし
今 勝吉 議員



つぶやき
忘れてはいけない
地域文化、継続的
な振興を

問 今議員

①長い間、各地域で伝承されてきた郷土芸能の無形文化などの保護や保存、伝承の考えは。

②人口減少に伴い、文化・スポーツ・観光・経済などの分野を一体にした、まちづくりを活発に行うべきと思うが。

③地域の実情を都市部で暮らす深浦出身者との交流をより盛んにし、課題克服に向けた取組を進めるべきと思うが。

答 町長

①町では、無形民俗文化財の保存や継承を図ることを目的に、指定団体への運営費補助金の交付を続けているほか、衣装や太鼓等が必要な団体には、求めに応じて購入費用の一部補助を行っている。少子高齢化に伴い、各団体が担い手不足が心配されているので、財政的な支援のほかに、関係団体の活動を広報等で紹介するなど、町の宝である郷土芸能が後世に引き継がれていくよう努めている。

②③当町は、世界自然遺産「白神山地」を始め、十二湖など風光明媚な自然観光資源と円覚寺などの歴史文化資源を数多く保有している。これらの資源を活用



▲学生ボランティアも参加して賑わった大間越地区春日(鹿島)祭り(2018年撮影)

問 今議員

①吾妻川河口から長慶平（東股沢）エリアは保護水面の指定区域となっている。私たちの少年時代のように、今の子供たちにも川で魚を捕ったり、自然に触れて様々な経験をする機会を与えるべきと思うが。

②吾妻川には、2年続きで発生した豪雨で流出した樹木が河川を塞いでいる。再び大雨になれば二次災害が発生するおそれがある。この現状を把握しているのか。また、撤去するのか。

答 町長

①吾妻川は、河口から東股沢上流にある第1堰堤までの約9キロメートルが、農林水産大臣指定の保護水面区域として、年間を通じて、すべての水産動植物の採捕が禁止されている。また、教育委員会では以前から、自然と

しつつ、都市部との地域間交流を通じて関係人口の創出を図り、郷土芸能に外部から参加しやすい環境を作ること、観光産業の更なる活性化と、地域に伝承された伝統文化の維持や継承の相乗効果が高まる取組を進めていきたい。

河川環境
今の子供たちにも
自然に触れる機会を
『実施している
更に充実させたい』